

統計アラカルト

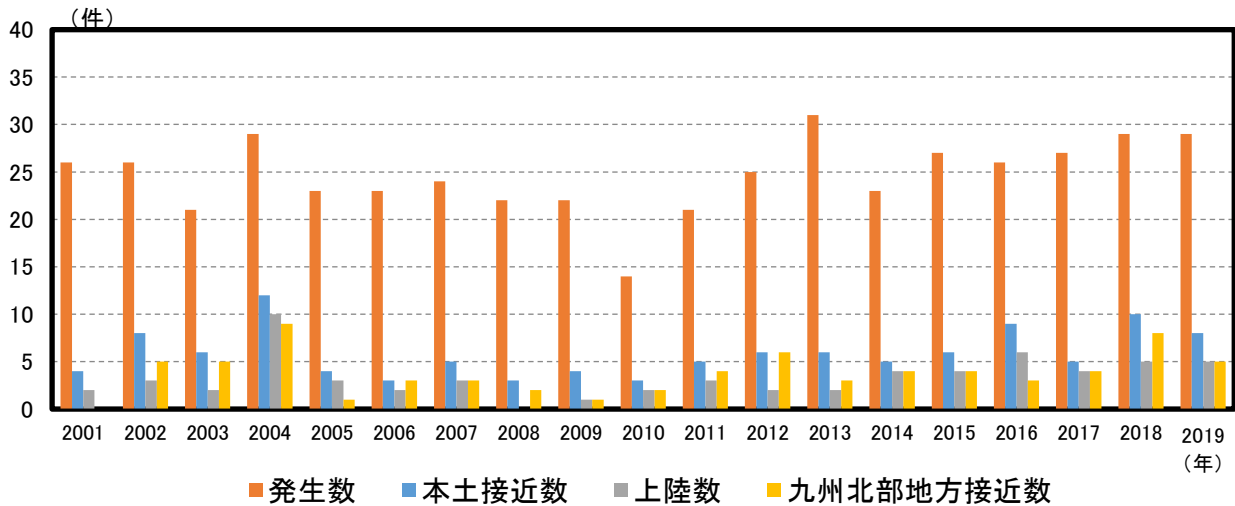
熊本の統計情報

令和2年7月3日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

随時、色々な統計に関する話題・データを紹介します。

台風シーズンを前に過去の台風発生件数等を調べてみました。 (日本に上陸する台風は増えているのでしょうか?)



単位: 件数

発生年	発生数	本土接近数	上陸数	九州北部地方接近数	発生年	発生数	本土接近数	上陸数	九州北部地方接近数
2001	26	4	2	0	2011	21	5	3	4
2002	26	8	3	5	2012	25	6	2	6
2003	21	6	2	5	2013	31	6	2	3
2004	29	12	10	9	2014	23	5	4	4
2005	23	4	3	1	2015	27	6	4	4
2006	23	3	2	3	2016	26	9	6	3
2007	24	5	3	3	2017	27	5	4	4
2008	22	3	0	2	2018	29	10	5	8
2009	22	4	1	1	2019	29	8	5	5
2010	14	3	2	2					

※熊本県は九州北部地方に含まれる

台風の発生数、上陸数ともに波があり増加傾向にあるとは言えないようです。

台風に関する用語(一部抜粋)

・台風の接近	a)ある地点への台風の接近: 台風の中心が、その地点から300km以内に入ること。 b)ある広がりをもった地域(地方予報区など)への接近: 台風の中心が、その地域に含まれるいずれかの気象官署等から300km以内に入ること。
	備考 日本本土への接近という場合は、北海道・本州・四国・九州のいずれかへの接近を指す。用いる気象官署等については、統計の継続性の観点から一貫したリストを用いている。
・台風の上陸	台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸に達した場合を言う。
	備考 上陸・通過した時刻については、1時間を正時及び15分、30分、45分を中心とした15分間に4分割して、それぞれ「時頃」、「時過ぎ」、「時半頃」、「時前」と表現し、最も適した時間帯を用いる。
・台風の通過	台風の中心が、小さい島や小さい半島を横切って、短時間で再び海上に出る場合を言う。

出典元: 気象庁「過去の台風資料」より

近年、勢力の強い台風が世界的に増えていますが、地球温暖化の影響なのでしょうか？

国土交通省のホームページで、地球温暖化と台風の関係性について述べてあるコラムがありましたのでご紹介します。

「地球温暖化と台風の関係について」

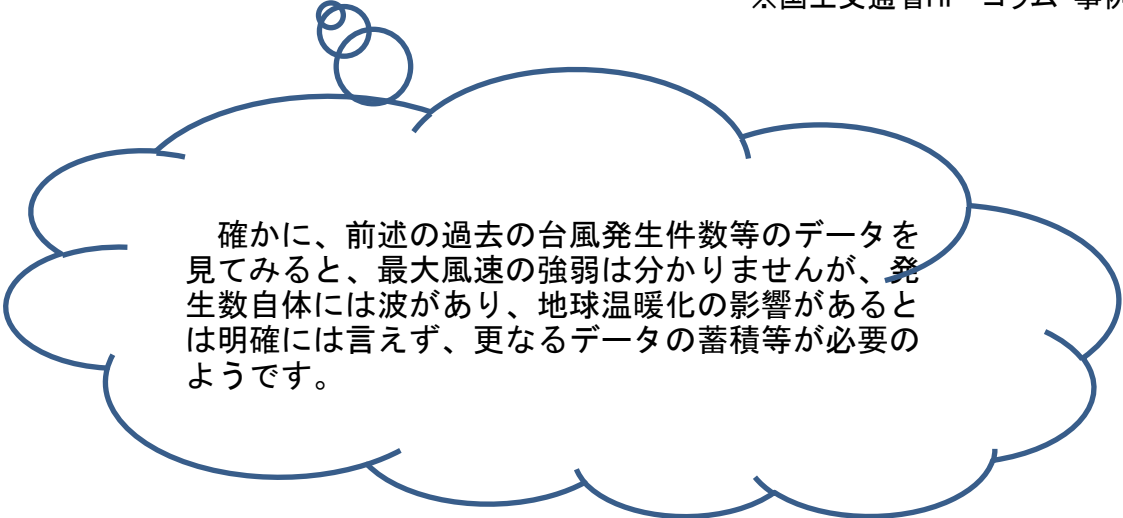
地球温暖化と台風の関係については、現時点では、地球温暖化の影響が台風の大きさや強さに及んでいると結論付けることはできません。

台風の年間発生数に対する、最大風速が毎秒33m以上の「強い」勢力を持つ台風の発生割合は、1970年代後半から80年代後半にかけて増加傾向にありましたが、80年代後半をピークに90年代後半まで減少傾向が続き、2000年代になって再び増加に転じています。このような動向は10～20年程度で増減するものであり、地球温暖化による気温の上昇傾向と明瞭な相関があるとは言えません。

しかし、気象庁気象研究所や財団法人地球科学技術総合推進機構を中心とする研究グループによる21世紀末頃を想定した温暖化予測実験によると、全球的な熱帯低気圧の発生数については、現在気候再現実験における発生数よりも30%程度減少する一方、海上(地上)の最大風速が45m/sを超えるような非常に強い熱帯低気圧の出現数については、地球温暖化に伴って増加する傾向があるとされており、災害が全体として激化することを想定することが重要と考えられます。

ただし、現在のところこのような数値実験の結果がどこまで信頼できるかを判断するためには、更なる研究が必要です。

※国土交通省HP コラム・事例より



確かに、前述の過去の台風発生件数等のデータを見てみると、最大風速の強弱は分かりませんが、発生数自体には波があり、地球温暖化の影響があるとは明確には言えず、更なるデータの蓄積等が必要のようです。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp